

産婦人科



診療科紹介 HP

診療部長紹介

現在、聖マリアンナ医科大学病院副院長を拝命しております。また、生殖医療センター長、腫瘍センター副センター長（AYA支援部会長）を担当しております。専門は、産婦人科診療全般、婦人科腫瘍、がん・生殖医療となります。専門医等は以下に記します；日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医、日本婦人科腫瘍学会専門医・指導医、日本臨床細胞学会細胞診専門医・教育研修指導医、緩和ケアの基本教育に関する指導者（日本緩和医療学会）。



診療部長

鈴木 直（主任教授）

診療科の特色

当院産婦人科は、周産期医療、婦人科診療、生殖医療そして女性ヘルスケア診療の、産婦人科の代表的な4分野全ての専門家を有する診療科です。地域の周産期医療を守る役割に加え、アカデミアならではの先進的な医療を提供させていただいております。どのようなことでも結構です。お困りの際は、いつでも何なりとご紹介ください。

主な対象疾患

- ・ **婦人科悪性腫瘍**（子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん・膣外陰がん・絨毛性疾患、遺伝性腫瘍など）
- ・ **婦人科疾患**（子宮筋腫・子宮内膜症・良性卵巣腫瘍・異所性妊娠・骨盤臓器脱など）
- ・ **産科**（無痛分娩・出生前診断・多胎妊娠・合併症妊娠・早産・胎児奇形など）
- ・ **生殖**（不妊症・妊孕性温存・不育症など）
- ・ **女性ヘルスケア**（更年期障害・月経異常・骨粗鬆症・感染症・HPVワクチンなど）

患者さんのご紹介について

 **聖マリアンナ医科大学病院**
ST. MARIANNA UNIVERSITY HOSPITAL

 044-977-8111（代表）

紹介受付時間：平日 8：30～15：00
土曜 8：30～11：00



044-975-0608

医療機関からのWEB予約サイトはこちら



 聖マリアンナ医科大学病院
患者さんの紹介について

お問い合わせ先：メディカルサポートセンター



・総合周産期母子医療センター

聖マリアンナ医科大学総合周産期母子医療センターは、神奈川県内に5つある総合周産期母子医療センターの中で、川崎市全体をカバーする唯一の拠点としての役割を担っています。麻酔科医師の全面的なサポートのもと、24時間無痛分娩が可能な体制を整え、地域のお産を24時間体制で支えています。さらに、産科セミオープンシステムも構築しております。なお、当センターは、MFICU（9床）とNICU（15床）を有し、母体の高齢化などに伴い増加するハイリスク症例にも対応できる体制を備えています。



主な対象疾患

＜母体・胎児管理を要する疾患＞

妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、母体合併症妊娠、産褥（弛緩）出血、切迫流産、前期破水、多胎妊娠、胎児発育不全、胎児仮死、羊水過多および過少、その他ハイリスク妊娠・出産の管理

＜新生児管理を要する疾患＞

多胎、胎児発育不全、新生児仮死、早産児、低出生体重児、胎児水腫、双胎間輸血症候群、先天性心疾患、新生児呼吸障害、新生児外科疾患など

・生殖医療センター

生殖医療センターは、この生殖補助技術を用いた治療を主に行う部門として設置されました。近年の生殖医療の進歩にはめざましいものがあります。生殖補助技術を行うには、専門的な知識・技術が必要です。大学病院の特性を生かし、専門的な手術や検査も行っています。当センターには、他の病院で断られるような合併症のある患者さんやなかなか妊娠に至らなかった難治性不妊の患者さんも多く受診されています。またこの治療は、カップル単位の医療であり当生殖医療センターでは男女両面からのサポートをする診療を心掛けています。このような高度医療を行うための診療科間の連携を保つために生殖医学の基礎研究者も本センターに加わり設立されました。

◆小児・AYA世代がん患者さんに対する妊孕性温存療法（がん・生殖医療）に関して、国の認定機関として日本で最も多くのがん患者さんに対するがん・生殖医療を提供できる体制を整えています。

◆幅広い知識を有する専門医が担当するAYA世代がん患者さんの「がんとの共生（国のがん対策）」を目指した移行期医療の提供（オンコヘルスケア外来）、ホルモン補充療法や漢方治療そして骨粗鬆症治療を適切に組み合わせた女性ヘルスケア（更年期医療等）、排尿障害等にも対応できるウロギネ外来などを設置し、積極的に推進しています。

主な専門外来

早発卵巣機能不全外来（月～金）、がん・生殖医療外来（火）、卵管不妊外来（水）、不育症外来、更年期外来（金）、遺伝カウンセリング外来（木・金）
生殖医療カウンセリング外来（木）